

令和4年度～令和8年度

中津川市母子保健事業計画



令和4年3月

中津川市健康医療課

目 次

I. 母子保健事業計画概要	1
II. 計画の体系	2
III. 現状と課題及び計画の指標と具体的な取り組み	4
IV. 母子保健事業体系	20

*資料集

1. 中津川市母子保健統計	21
2. 妊婦に関するアンケート結果について	25
3. 子育て環境に関するアンケートまとめ	
(1) アンケート集計	26
(2) 経年的アンケート集計	27
(3) 健診時おたずね表集計	29
(4) 赤ちゃん訪問おたずね集計	31
4. 3歳児健診視力検査に関する資料	31
5. 妊婦に関する資料	
(1) 妊婦の体格と妊娠中の体重管理について	32
(2) 妊娠期の高血圧・尿蛋白・妊娠糖尿病と産後の管理	32
(3) 妊娠経過中の貧血状況について	33
(4) 妊婦の喫煙状況	33
(5) 岐阜県 母と子の健康サポート事業利用者状況	33

*参考資料

1. 健やか親子 21 指標及び目標	34
2. 母子保健連絡協議会委員名簿	36

I. 母子保健事業計画(令和4年度～令和8年度)概要

中津川市の母子保健計画は、平成9年度から策定を行い、5年毎に見直しを行ってきました。平成22年度から母子保健計画は中津川市次世代育成支援対策行動計画(平成22年度～平成26年度)に統合し、令和2年3月には第二期中津川市子ども・子育て支援事業計画(令和2年度～6年度)が策定されました。子どもと子育てを取り巻く施策は、保健、医療、福祉、教育、労働、まちづくりなどあらゆる分野にわたるため、これらの施策の総合的・一体的な推進が必要です。

母子保健は、すべての子どもが健やかに成長していくうえでの、健康づくりの出発点であることから、母子保健事業を推進するための、具体的な行動計画を作成します。

1. 基本理念

すべての子どもが健やかに育つことを目指し「母性を守る」「母親、父親の育児力の向上」「育児しやすい家庭や地域の環境づくり」をすすめ、生涯にわたる健康づくりの活動が継続することを目指します。

2. 目標

- (1) 母子保健におけるライフサイクルの各期を通じて、健康な体づくりができるようになる。
- (2) 妊娠期から子どもの健やかな成長発達を促し、親が安心して産み育てることができるようになる。

3. 骨子

- (1) 安全・安心な妊娠、出産への支援
- (2) 子どもの健やかな成長発達への支援
- (3) 思春期からの健康づくりの支援
- (4) 子どもの感染症予防
- (5) 歯と口腔の健康づくりの支援

4. 計画の期間と実施状況評価について

この計画の期間は、令和4年度から令和8年度までの5か年とします。社会環境や母子保健のニーズ、新たな課題に柔軟に対応するために必要に応じて見直しを行います。

II. 計画の体系

今回の計画では、妊娠期から出産、産後、育児期における切れ目ない支援の充実に取り組み、各事業間や関連機関との連携を強化します。

計画の骨子を具体化するために、計画の骨子の下に基本方針、その下に事業を設定し、計画の体系化を図りました。

骨子1 安全・安心な妊娠、出産への支援

■ 基本方針1-1 ■ 妊娠中から母子の健康を守ります

- 事業1-1-1 妊婦健康診査の充実
- 事業1-1-2 妊婦の体の変化、胎児の成長についての学習と個別支援の充実
- 事業1-1-3 妊婦の食・生活習慣に関する学習の充実
- 事業1-1-4 夫婦での禁煙指導の実施

■ 基本方針1-2 ■ 産後の母の健康を守ります

- 事業1-2-1 妊婦健診結果から生活習慣病を予防する
- 事業1-2-2 再喫煙防止のための指導の実施

■ 基本方針1-3 ■ 妊娠期から産後まで安心して過ごせるよう支援します

- 事業1-3-1 要支援妊産婦の支援

■ 基本方針1-4 ■ 妊娠を望む夫婦へ支援します

- 事業1-4-1 不妊治療費助成事業

■ 基本方針1-5 ■ 親となる心がまえを育てます

- 事業1-5-1 母性・父性の学習の場づくり

骨子2 子どもの健やかな成長発達への支援

■ 基本方針2-1 ■ 安心して保護者が育児できるよう支援します

- 事業2-1-1 成長発達のメカニズムと育児方法に関する理解の促進
- 事業2-1-2 子どもの心身の成長に必要な“食”に関する学習の充実
- 事業2-1-3 子育ての不安や悩みに対する相談体制の充実

■ 基本方針2-2 ■ 子どもが健やかに成長発達できるよう、心身の異常の早期発見に努めます

- 事業2-2-1 健診精度の向上
- 事業2-2-2 医療機関との円滑な連携

■ 基本方針2-3 ■ 虐待を予防します

- 事業2-3-1 虐待の早期発見への体制づくり
- 事業2-3-2 関係機関との連携強化

■ 基本方針2-4 ■ 障がい児の発達を支援します

- 事業2-4-1 0歳児からの切れ目ない支援体制の確立
- 事業2-4-2 発達支援を要する子どもに関する連携体制の充実

骨子3 思春期からの健康づくりの支援

■ 基本方針3-1 ■ 子どものころから生活習慣病を予防します

- ― 事業3-1-1 栄養教諭・学校栄養士と連携し食育を推進

■ 基本方針3-2 ■ 命の教育実施に協力します

- ― 事業3-2-1 教育委員会、小中学校との連携
- ― 事業3-2-2 学校においての防煙、飲酒防止教育の取り組みの支援、連携

骨子4 子どもの感染症予防

■ 基本方針4-1 ■ 定期予防接種の接種率を高めます

- ― 事業4-1-1 接種勧奨、指導、相談の実施
- ― 事業4-1-2 受けやすい予防接種体制づくり

■ 基本方針4-2 ■ 感染症予防について情報提供を行います

- ― 事業4-2-1 感染症予防に努める

骨子5 歯と口腔の健康づくりの支援

■ 基本方針5-1 ■ 妊娠中から母子の歯の健康を守ります

- ― 事業5-1-1 妊婦歯科健診の充実
- ― 事業5-1-2 妊娠中から継続した歯科保健指導の実施

■ 基本方針5-2 ■ 幼児期のむし歯予防と口腔機能の獲得を支援します

- ― 事業5-2-1 幼児期の歯科保健指導の充実
- ― 事業5-2-2 むし歯発症リスクの高い子どもや障がい児への指導の充実
- ― 事業5-2-3 口腔機能の発達支援

■ 基本方針5-3 ■ 学齢期の歯科保健活動を支援します

- ― 事業5-3-1 学校の歯科保健学習・指導の充実

Ⅲ. 現状と課題及び計画の指標と具体的な取り組み

骨子1 安全・安心な妊娠、出産への支援

	現状と課題	目指す姿(小目標)
<p>■妊婦の食・生活習慣に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> 妊婦教室参加者のアンケート結果から食生活や栄養面で心配や不安なことがある妊婦は33.9%いる。 [資料集 p 25-2-(1)-1)] 妊娠期の貧血の状況から妊娠期間中にHb10.9g/dl以下となる妊婦は239人(51.8%)であった。 [資料集 p 33-5-(3)] 生活リズムについては起床時刻は午前7時前が67.7%、就寝時刻が午後11時前が38.7%であった。 [資料集 p 25-2-(2)-1), 2)] <p>【課題】 妊娠期の食生活リズムは胎児の成長や母体へ影響が出るため、妊娠期の食事・栄養の摂り方を妊娠初期から指導する必要がある。</p>	<p>妊娠期間中に望ましい食、生活習慣を身につけ、貧血、妊娠高血圧症候群、妊娠性糖尿病等を予防し、安全安心な出産ができる。また母子ともに生涯にわたり健康で過ごすための食生活を理解できる。</p>	
<p>■妊婦とその家族の喫煙状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度母子健康手帳交付時に喫煙ありの妊婦は6人(1.4%)であった。 [資料集 p 33-5-(4)-1)] 令和2年度母子健康手帳交付時、夫の喫煙率は30.6%であった。 [資料集 p 33-5-(4)-2)] <p>【課題】 喫煙妊婦の指導には家族の協力も必要なので、夫を含めた家族単位での指導が必要である。また妊婦自身が喫煙しなくても、夫の喫煙による受動喫煙が問題となるので、夫に対しての指導を実施する必要がある。</p>	<p>タバコによる胎児や子どもへの影響を理解し、受動喫煙を防ぐ行動がとれる。</p>	

項目	指標		具体的な取り組み
	現状	目標	
1) 低出生体重児の出生割合 2) 妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、慢性腎臓病について妊娠中に説明を行う	9.6% 実施	9.0% 継続実施	<p>事業1-1-1 妊婦健康診査の充実</p> <p>①母子健康手帳交付時、妊婦健康診査受診票を交付する。妊婦受診票の内容充実を図り、14枚発行を継続する。発行時に健診内容、受診の必要性、受診時期について説明を行う。</p> <p>事業1-1-2 妊婦の体の変化、胎児の成長についての学習と個別支援の充実</p> <p>①母子健康手帳交付時に必要に応じて個別に妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、慢性腎臓病の資料をもとに説明を行う。また、妊娠中の体の変化、胎児の成長について「すくすく帳」で説明する。体重管理についても必要に応じて食事のバランス、食べる量の目安について個別に指導を行う。</p> <p>②オンラインによるパパママ教室にて、保健師・栄養士は、産後の育児がイメージできるよう「すくすく帳」を使用し、母体・胎児の視点から妊娠期の健康管理について学習する場を設ける。質疑応答をしながら妊婦個々の悩みや不安に応じて相談を実施する。</p>
1) 母子健康手帳交付時に一日に摂りたい食品の目安量の説明を行う 2) 妊娠期間中にHb10.9g/dl以下となる妊婦	実施 51.8%	継続実施 減少	<p>事業1-1-3 妊婦の食・生活習慣に関する学習の充実</p> <p>①母子健康手帳交付時に生活リズムや栄養学習・相談を継続して行う。</p> <p>②妊娠中の望ましい食生活について「日本人の食事摂取基準」に基づき作成した資料を用いて指導を行う。</p> <p>③妊婦教育、調理実習は新型コロナウイルス感染予防の為、現在は実施していないが必要に応じ個別栄養指導を行う。オンラインでの相談事業を継続的に行う。</p> <p>④母子健康手帳交付時に、貧血傾向の妊婦と低体重の妊婦へは個別栄養指導を実施する。</p>
1) 妊娠中の妊婦の喫煙率 2) 母子健康手帳交付時の夫の喫煙率	1.4% 30.6%	0.0% 30.0%	<p>事業1-1-4 夫婦での禁煙指導の実施</p> <p>①母子健康手帳交付時、チラシを使用して胎児・子どもへのタバコの害、タバコのやめ方を指導する。</p> <p>②母子健康手帳交付時に喫煙ありと答えた妊婦に禁煙支援を行う。</p> <p>③両親への禁煙指導として、必要に応じてパパママ教室(初産妊婦とその夫の教室)でタバコの害、やめ方に関する学習を行う。</p>

	現状と課題	目指す姿(小目標)
基本方針1・2 産後の母の健康を守ります	<p>■妊娠期の生活習慣病の状態</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度の妊娠期高血圧である妊婦は44人（9.5%）で、全員の経過を把握できている。 [資料集 p 32-5-(2)-1] 妊娠糖尿病である妊婦はその後の受診状況の確認がほぼ行えているが、産後の尿蛋白異常者についてはその後の状況把握や受診勧奨が十分に実施できていない。 [資料集 p 32-5-(2)-2, 3] <p>【課題】 妊娠に伴う高血圧症候群、尿糖や尿蛋白等の検尿異常などは将来の生活習慣病リスクとなる。適切な受診勧奨、生活習慣に関する指導を引き続きしていく必要がある。</p> <p>■産婦の喫煙状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度の母子健康手帳交付時のアンケートでは、たばこを吸っていたがやめたと回答した母は52人（12.5%）、3か月児健診のおたずねでたばこを吸っていると回答した母は12人（2.6%）となり、平成27年度よりは減少している。 [資料集 p 33-5-(4)-1, 3] <p>【課題】 受動喫煙による健康被害の予防と母親の生活習慣病予防のために再喫煙防止の支援が、産後早期から必要である。</p>	<p>産後の健康状態に応じて適切な医療機関受診ができ、自身の健康状態について理解し、望ましい生活習慣を送ることができる。</p> <p>妊娠をきっかけに禁煙した妊婦とその家族が子どもの受動喫煙の害について理解し、母親の再喫煙を防ぐことができる。</p>
基本方針1・3 安心して過ごせるよう支援します	<p>■妊娠期からの養育支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度母子健康手帳交付者のうち特定妊婦13人（2.9%）、ハイリスク妊婦73人（16.6%）であった。 令和2年度母子健康手帳交付者で精神疾患ありは11人（2.5%）、望まない妊娠（予想外で戸惑った、困った、なんとも思わない）は11人（2.5%）、困った時の支援者がいない12人（2.7%）であった。 令和2年度妊娠期に保健師から子育て世代包括支援センターへつなげた相談件数は17件（3.8%）であった。 <p>【課題】 新型コロナウイルスの影響もあり、心身の不調や経済面、支援者がおらず不安等をもつ妊産婦・家庭は増加傾向にある。産前産後の心身の不調や養育環境の問題等は育児不安の増強や虐待リスクが高まることが考えられるため、妊娠期から早期に継続的に他職種連携しながら支援していく必要がある。</p>	<p>支援が必要な家庭を妊娠期から判断し、関係機関と連携しながら妊娠期から子育て期まで安心して過ごすことができる。</p>
基本方針1・4 望む夫婦へ支援し妊婦を	<p>■不妊治療助成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度特定不妊治療費助成事業の実績は県助成申請89件、中津川市助成65件、うち妊娠成立22件であった。 特定不妊治療費は1件当たり平均61万円、一般不妊治療は1回当たり5万円ほど費用がかかり経済的にも精神的にも負担が大きい。 <p>【課題】 不妊治療について、経済的支援を行う必要がある。</p>	<p>不妊治療は、治療費が高額であり治療に要する費用の一部を助成することにより、その経済的負担の軽減を図る。</p>
基本方針1・5 心がまえを育てます	<p>■父親の育児参加</p> <ul style="list-style-type: none"> 乳幼児健診のアンケートから父親が育児の相談相手、精神的な支えになっていると答えた母親は89.4%、父親の育児参加に満足している母親は68.6%であった。 <p>【課題】 父親の育児参加が増えており、父親の育児に関する学習や交流の場が必要である。</p>	<p>妊娠期から、子どもを健やかに生み育てるための父母としての心構えを持てる。</p>

指標			具体的な取り組み
項目	現状	目標	
1) 高血圧、尿蛋白・尿糖陽性など生活習慣病ハイリスク者の生活指導を実施	実施	継続実施	<p>事業1-2-1 妊婦健診結果から生活習慣病を予防する</p> <ol style="list-style-type: none"> 母子健康手帳から妊娠中の健康状態の実態把握を行う。 産後、新生児訪問時や3か月児健診で対象者を把握し、妊娠高血圧、妊娠糖尿病、慢性腎臓病のフォローマニュアルに添って継続支援を行う。 該当者に尿検査、血圧測定を実施し必要に応じ受診勧奨を行う。 高血圧、尿蛋白、尿糖等将来の生活習慣病リスクを有する者を対象に、将来の生活習慣病予防のため必要に応じ家族を含めた指導を行う。 <p>事業1-2-2 再喫煙防止のための指導の実施</p> <ol style="list-style-type: none"> 母子健康手帳交付や、乳幼児健診時に親・家族の喫煙状況を把握する。喫煙ありの母親、妊娠をきっかけに禁煙した母親に対して、赤ちゃん訪問実施時に状況を確認し、指導マニュアルを利用して指導を行う。その後は乳幼児健診等で喫煙状況を把握し継続して声をかける。 母子健康手帳交付時にチラシを使用し、家族の喫煙が子どもの発育に影響を及ぼすことを指導する。 家族に喫煙者がいる場合、家族の禁煙支援を行う。禁煙外来・禁煙支援薬局等の禁煙方法を紹介する。
1) タバコを吸っていた妊婦の再喫煙率 2) 妊娠をきっかけに禁煙した妊婦に3か月児健診時指導を実施	2.6% 実施	0.0% 継続実施	
1) 要支援妊産婦訪問指導	実施	継続実施	<p>事業1-3-1 要支援妊産婦の支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 母子健康手帳交付時に対象把握に努め、ハイリスク・特定妊婦スクリーニング表にてアセスメントを実施し、該当した要支援妊婦に対し継続支援を実施。 母子健康手帳交付時に支援が必要と思われる妊婦は子育て世代包括支援センターへつなぎ、他職種で連携できる体制をとる。 母と子の健康サポート支援事業等、医療機関からの情報提供があった場合は、継続的に支援を行い、関係機関と連携を図る。 特定妊婦等については子ども家庭課と毎月1回連絡会議を開催し、情報共有や支援の方向性の確認等を行う。 産後ケア・産婦健診後のフォロー体制を医療機関と整え、フォローしていく。
1) 特定不妊治療費助成事業を円滑に遂行 2) 一般不妊治療助成事業を円滑に遂行	実施 実施	継続実施 継続実施	<p>事業1-4-1 不妊治療費助成事業</p> <ol style="list-style-type: none"> 不妊治療のうち体外受精、顕微授精について中津川市特定不妊治療費助成事業実施要綱に基づき費用の一部助成を行う。 不妊治療のうち人工授精について中津川市一般不妊治療（人工授精）助成事業実施要綱に基づき費用の一部助成を行う。
1) 夫が育児の相談相手である割合 2) オンラインパパママ教室参加率 3) お子さんのお父さんは育児をよくしていますか	89.4% 35.7% 68.6%	95.0% 50.0% 75.0%	<p>事業1-5-1 母性・父性の学習の場づくり</p> <ol style="list-style-type: none"> 母子健康手帳交付時に父親対象に父子手帳を交付して手帳の活用について指導を行う。 第1子出産予定の夫婦を対象にオンラインパパママ教室を実施する。親になるための心構え、産後の生活に関する教育を生涯学習課の協力を得て実施する。 父親の育児相談について周知を行う。

骨子2 子どもの健やかな成長発達への支援

	現状と課題	目指す姿(小目標)
基本方針2・1 安心して保護者が育児できるよう支援します	<p>■年齢に応じた発達、子育てについての保護者の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の生活リズムを見ると早寝、早起きをする子どもが増えてきている。午前8時以降に起きる子どもは4.5%と減少、午前6時台に起きる子どもは54.3%と増えている。午後10時以降に寝る子どもは6.2%と減少した。 [資料集 p 28-2)-①, ②] ・幼児にテレビを見せる時間は、1日3時間以上見せている割合が16.5%と増加している。スマートフォン、タブレットを3時間以上見せている割合は、1歳6か月児健診で0.9%、3歳児健診3.8%と年齢が高くなるにつれ増加している。 [資料集 p 28-2)-⑤, ⑥] ・成長発達のメカニズムと育児方法の学習は、各乳幼児健診や相談等で必要に応じて個別で実施。 ・子育てや子どもとの接し方が分からず落ち込んでしまうことがある親の割合は、3か月児健診19.0%、1歳6か月児健診29.8%、3歳児健診37.5%であった。 [資料集 p 26-3-(1)-1)-⑤] <p>【課題】 生活リズムは早寝、早起きの傾向が進んでいるが、各年齢で繰り返し伝えていくことが必要である。幼児のテレビ視聴時間が8.6%から16.5%と増加しており、コロナ禍において家にいる時間が増えた事により増加した可能性がある。子どもとの接し方が分からず落ちこむ保護者は、児の年齢があがるにつれて増加傾向にあり、保護者自身が子どもの発達を理解することで不安を解消したり、育児方法を選択できるような支援を今後も継続する必要がある。</p>	<p>保護者自身が子どもの発達のメカニズムを理解し、月齢にあった関わりや育児方法を理解することで、安心して子育てができる。</p>
	<p>■乳幼児の食に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6か月児相談で、栄養のことで心配なことや相談したいことがある割合は28.1%であった。 ・3歳児健診で朝食を食べないことがある子どもの割合は3.5%で、朝食を食べないことがある親の割合は13.2%であった。親と子の欠食の関連をみると、食べない子ども22人の内16人は親も食べないことがあると回答しており、親の生活が子どもに影響を与えている。 [資料集 p 28-2)-③, ④] ・幼児期の食事で困っていると回答した親の割合は、69.6%であった。 [資料集 p 29-(3)-1)①] ・ジュースなどの甘い飲み物をよく飲ませる割合は、年齢が上がるにつれ割合が増える傾向にあり、3歳児では27.4%であった。 [資料集 p 29-(3)-1)③] ・3歳児健診で尿中塩分濃度の測定を実施している。推定一日塩分摂取基準量を超える4g以上が237人(44.8%)であった。 <p>【課題】 乳児期の栄養面については28.1%の親が心配があり相談したいと答えており、健診や相談での指導を強化していく必要がある。3歳児健診の尿中塩分濃度の測定を実施し、将来の生活習慣病予防のため、子どもの頃から薄味にするよう指導していくことが必要である。</p>	<p>乳幼児期から安定した生活リズムの中で適切な食事のとりかたや望ましい食習慣の定着、食を通じた豊かな人間性を育む。</p>

項目	指標		具体的な取り組み
	現状	目標	
<p>1) 午前8時以降に起きる児 午後10時以降に寝る児</p> <p>2) 3時間以上テレビを見せている割合</p> <p>3) 子育てや子どもとの接し方が分からず落ち込んでしまうことがある親の割合 ・3か月児健診 ・1歳6か月児健診 ・3歳児健診</p>	<p>4.5% 6.2%</p> <p>16.5%</p> <p>19.0% 29.7% 37.3%</p>	<p>減少 減少</p> <p>減少</p> <p>減少 減少 減少</p>	<p>事業2-1-1 成長発達のメカニズムと育児方法に関する理解の促進</p> <p>①乳幼児健診、相談等各事業において保護者の学習を継続的に実施する。</p> <p>②脳や体の発達のメカニズムに基づき子どもの成長発達過程、関わり方や育児方法が分かる資料(すくすく帳)を配布し活用する。</p>
<p>1) 栄養のことで心配なこと 相談したいことがある割合 ・6か月児相談</p> <p>2) 子どもが朝食を食べないことがある割合 ・1歳6か月児健診 ・3歳児健診</p> <p>3) ジュースなど甘い飲み物をよく飲ませる割合 ・1歳児相談 ・1歳6か月児健診 ・3歳児健診</p> <p>4) 3歳児尿中塩分濃度推定一日塩分摂取量5g以上</p>	<p>28.1%</p> <p>2.0% 3.5%</p> <p>5.0% 19.4% 27.4%</p> <p>19.6%</p>	<p>減少</p> <p>0.0% 0.0%</p> <p>減少 減少 減少</p> <p>減少</p>	<p>事業2-1-2 子どもの心身の成長に必要な“食”に関する学習の充実</p> <p>①6か月児相談、1歳児相談対象全員に個別栄養相談を実施する。</p> <p>②フォローが必要な児についてはオンライン相談や乳幼児個別相談にて継続して相談の機会を提供する。</p> <p>③子どもの成長、発達段階に応じた栄養の資料を作成し指導に役立てる。</p> <p>④子どもの正常な発育と将来の生活習慣病予防の為に、朝食摂取、減塩、野菜摂取の必要性を指導していく。</p>

	現状と課題	目指す姿(小目標)
基本方針2・1 安心して保護者が育児できるような支援します	<p>■子育ての不安や悩みに関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> 育児に自信が持てない保護者の割合は3か月児健診36.8%、1歳6か月児健診50.6%、3歳児健診49.5%であった。ゆったりした気分で子どもと過ごせる時間がある保護者の割合は、3か月児健診86.4%、1歳6か月児健診80.0%、3歳児健診68.3%であり年齢が高くなるにつれて保護者の余裕もなくなっていることがわかる。 [資料集 p 26-3-(1)-1)-①, ②] 生後3か月までの乳児がいる家庭への保健師等による全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん事業）を実施。訪問実施率は令和2年度98.6%であった。 [資料集 p 23-1-(16)] こんにちは赤ちゃん事業のおたずねにて、お母さんの心の健康状態は良いですか？の質問の回答は93.1%と高いが、この1か月間、気分が沈んだり、憂うつな気持ちになったりすることがよくあると回答した母は30人（13.9%）と高かった。物事に興味がわからない、心から楽しめないなど産後うつ症状があったと回答をした母も4人（1.8%）いた。 [資料集 p 31-(4)-1)-①, ②, ③, ④] 未満児保育入所児は、平成28年448人（24.3%）から令和3年506人（35.2%）（4月1日現在）と増加している。未満児保育園数も18園から21園と増え、子育てと仕事を両立する親が増えている。 1歳6か月児健診のおたずねで他の子どもと交流していない保護者の割合は、平成28年度108件から令和2年度181件と増加している。 [資料集 p 27-3-(2)-2] 随時相談件数は、平成28年度675件(延べ件数1136件)から令和2年度1433件(3038件)と増加している。コロナ禍で外出できず、健康医療課に相談する保護者が増えている。 [資料集 p 27-3-(2)-4] <p>【課題】 育児不安や悩みをもつ保護者は増加傾向にあり、育児に自信が持てない保護者が増加していることから、産後早期からの不安解消への支援が必要である。子どもの成長発達には個性が高く、悩みがあった相談ができる場の周知も必要である。</p>	育児についての不安や悩みを持つ保護者がタイムリーに相談できる場を持ち、解消できる。
基本方針2・2 子どもが健やかに成長発達できるよう、心身の異常の早期発見に努めます	<p>■乳幼児の健診結果の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 健診未受診者に対して、受診勧奨はがきの送付、地区担当保健師の電話連絡や訪問等で対応。未受診者を全数把握する体制があり、他部署、他機関との情報提供もできている。今後も引き続き状況把握や追跡等の対応の強化が必要である。 精密検査結果は医療機関からの「乳幼児健診結果連絡票」を使用し、円滑な連携を目指すと共に、確実な受診確認および必要に応じて指導を実施している。乳幼児健診結果連絡票が活用されたこともあり、令和2年度の精密検査受診率は3か月児健診100%、1歳6か月児健診90.9%、3歳児健診90%であった。今後も健診の精度管理や異常の早期発見、対応への体制づくりを強化する。 [資料集 p 22-1-(6)] 3歳児健診の尿検査では再検査者と未実施者を年度末に抽出、尿検査提出勧奨はがきを送付し提出の呼びかけをしたことで受診率も高くなっている。未提出のまま入園した場合は、園での尿検査結果を保護者に電話で確認することで結果に反映していく。 [資料集 p 22-1-(7)] 3歳児健診から半年後に視力検査で問題があった児のリストを作成し視能訓練士視力検査へ案内することで、視力異常等の早期発見、早期治療へつなげている。令和2年度の要精密検査対象者は26人（4.1%）であり、そのうち要観察・要治療は17人（65.4%）であった。今後は従来の視力検査で見落とす可能性がある異常等を早期発見するため、屈折検査機器を用いた検査を導入していくことが必要である。 [資料集 p 31-4-(1)-1), 2)] <p>【課題】 子どもの健やかな成長発達のためには異常の早期発見、早期治療が不可欠であり、健診精度の向上と共に、健診後のより確実なフォローが重要である。また、医療機関等との円滑な連携も必要である。</p>	乳幼児健診において要医療及び要精検の判定のあった子どもが、適切な医療機関受診等ができることにより、健やかな成長発達が保障される。

指標			具体的な取り組み
項目	現状	目標	
1) 育児に自信が持てないことがある保護者の割合 ・3か月児健診 ・1歳6か月児健診 ・3歳児健診 2) ゆったりした気分で子どもと過ごせる時間がある保護者の割合 ・3か月児健診 ・1歳6か月児健診 ・3歳児健診	36.8% 50.6% 49.5% 86.4% 80.0% 68.3%	減少 減少 減少 増加 増加 増加	<p>事業2-1-3 子育ての不安や悩みに対する相談体制の充実</p> <p>①母子健康手帳交付や妊婦教室の際に安心・子育てガイドや子育てに関する情報サイト「なかつっこ」等を用い、産後早期からの相談先、相談機関の周知を行う。</p> <p>②個性に応じた相談（運動発達相談、幼児相談など）を継続して実施する。</p> <p>③オンライン相談や乳幼児個別相談にて、今後も継続して相談の機会を提供をする。</p> <p>④こんにちは赤ちゃん事業の訪問は保健師等による全戸訪問を継続して実施する。</p> <p>⑤未満児保育園に通う親への相談体制と園との連携を強化していく。</p>
1) 乳幼児健診受診率 ・3か月児健診 ・1歳6か月児健診 ・3歳児健診 2) 乳幼児健診精密検査受診率 ・3か月児健診 ・1歳6か月児健診 ・3歳児健診 3) 3歳児健診尿検査再検査実施率 4) 3歳児健診視力検査精密検査受診率	99.6% 99.7% 99.1% 100% 90.9% 90.0% 100% 80.8%	維持 維持 維持 100% 100% 100% 100% 100%	<p>事業2-2-1 健診精度の向上</p> <p>①健診未受診者への電話・訪問等での確認をする。</p> <p>②乳幼児健診の要精検、要医療に対する受診勧奨を徹底する。</p> <p>③乳幼児健診の要観察者への訪問、電話確認等フォローを徹底する。</p> <p>④乳幼児健診における低身長・低体重、頭囲等と3歳児健診の検尿、視力検査の要観察児に対しフォローマニュアルを活用し、確実なフォローを行う。</p> <p>事業2-2-2 医療機関との円滑な連携</p> <p>①継続して保護者の同意のもと「乳幼児健診結果連絡票」を使用し、医療機関との連携を図る。</p>

	現状と課題	目指す姿(小目標)
基本方針2・3 虐待を予防します	<p>■虐待に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> 感情的に叩いたことがある、感情的な言葉で怒鳴ったことがあるなどの親の割合は、3か月児健診5.9%、1歳6か月児健診21.5%、3歳児健診40.8%と年齢とともに高くなっている。 3歳児健診で感情的に叩いたり、怒鳴ったりしたことがある親の割合が、平成30年度は46.0%だったが、令和2年度は40.8%と減少している。 [資料集 p 27-3-(2)-1)-③] 令和3年度、東濃こども相談センターに通告のあった虐待件数は18件であった。 児童虐待相談件数は平成29年度7件から年々増加傾向にあり令和元年度は36件だったが、令和2年度は19件と減っている。身体的虐待が虐待件数の中で一番多い。コロナ禍の影響と関係があるのか今後も経過をみていく。 [資料集 p 27-3-(2)-3] 3か月児健診において乳幼児揺さぶられ症候群について知っている親の割合は95.0%であり、乳幼児ゆさぶられ症候群について理解している親が多いことがわかる。 [資料集 p 26-3-(1)-④] <p>【課題】</p> <p>6か月児相談以降の健診アンケートでは、児の年齢が高くなるにつれ、しつけや関わり方など、悩みを持つ親が増えており対応が必要である。</p> <p>虐待が子どもの生命及び情緒や人格、対人関係、認知発達などに与える影響は大きく、できるだけ早期に発見し対応するため、リスクの把握と共に子どもを取り巻く各関係機関との連携が必要である。また、保護者を虐待に追い込むことがないよう、子育て世代包括支援センターの周知の強化をする必要がある。</p>	<p>子育て中の保護者が悩みや不安を相談出来る場を持ち、必要な育児支援サービスを利用することができる。</p> <p>課題を抱える親子が地域から孤立することなく、子どもを取り巻く関係機関によって発見され、支援を受けることができる。</p>
基本方針2・4 障がい児の発達を支援します	<p>■障がい児の支援体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度末現在では療育手帳を有する5歳までの子どもは18人、身体障害者手帳を有する6歳までの子どもは11人である。対象者の状況把握や支援方法は地区担当保健師の判断にとどまることが多い。 令和2年度幼児相談を利用した幼児は延べ62人(実61人)、療育に26人(42.6%)つながっている。 令和2年度末児童発達支援事業(未就学児)は319人。 発達支援センター通所児は平成27年度157人だったが令和2年度261人と増加している。障がい区分として発達障害(疑い含む)での通所は、平成27年度95人(60.5%)令和2年度201人(77.0%)であった。 <p>【課題】</p> <p>健やかな成長発達のためには、発達支援に関わる関係機関が連携し、乳幼児期から就学後まで途切れのない支援を行うことが大切である。</p>	<p>障がいや疾患を持つ子どもや、発達に支援を要する子ども及びその保護者が、乳幼児期から途切れのない支援を受けることができる。</p>

指標			具体的な取り組み
項目	現状	目標	
<p>1)感情的に叩いたことがある、感情的な言葉で怒鳴ったことがある親の割合</p> <ul style="list-style-type: none"> 3か月児健診 1歳6か月児健診 3歳児健診 <p>2)3か月児健診において乳幼児揺さぶられ症候群について知っている親の割合</p> <p>3)こんには赤ちゃん事業実施率</p>	<p>5.9%</p> <p>21.5%</p> <p>40.8%</p> <p>95.0%</p> <p>98.6%</p>	<p>減少</p> <p>減少</p> <p>減少</p> <p>増加</p> <p>増加</p>	<p>事業2-3-1 虐待の早期発見への体制づくり</p> <p>①保健師等によるこんには赤ちゃん事業を継続して実施する。訪問未実施者及び、要フォロー家庭への保健師による全数訪問を徹底する。</p> <p>②乳幼児健診未受診者への訪問等対面による安全確認を徹底して行う。</p> <p>③母子健康手帳交付時に身体的、精神的、経済的なリスクのある家庭を把握する。出生届出書にてリスクとなりうる早産、低出生体重等を把握し、早期訪問を実施する。乳幼児健診・相談では診察、問診、相談内容、母子関係等からのリスクの把握を行い、関係機関との連携のもと、地区担当が中心となり支援を実施する。</p> <p>④安心・子育てガイド、市のホームページ等により子育て支援や相談先の利用方法等子育て世代包括支援センターの周知の徹底を図る。</p> <p>事業2-3-2 関係機関との連携強化</p> <p>①子ども家庭課等関係機関と随時情報共有を行う。</p>
<p>1)発達支援会議で情報共有</p> <p>2)療育システムネットワーク会議で情報共有</p>	<p>実施</p> <p>実施</p>	<p>継続実施</p> <p>継続実施</p>	<p>事業2-4-1 0歳児からの切れ目ない支援体制の確立</p> <p>①障がいや疾患を持つ子のより良い支援のための台帳作成及び、必要に応じて会議を実施する。発達支援を必要とする子どもの状況把握をし、保護者の子育て支援に役立てる。</p> <p>事業2-4-2 発達支援を要する子どもに関する連携体制の充実</p> <p>①乳幼児健診等で把握した支援を要する子どもについて、発達支援会議、就園検討会、入所連絡会等の機会を通じ、幼児教育課、発達支援センター等各関係機関と情報の共有を行うと共に、支援方法の検討などを行う。</p> <p>②中津川市の療育体制整備のための会議へ参加する。</p>

骨子3 思春期からの健康づくりの支援

	現状と課題	目指す姿(小目標)
基本方針3 生活習慣病を予防するから	<p>■子どもの学校健診結果状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度学校健診の結果、動脈硬化の危険因子となるLDLコレステロール値120mg/dl以上であった児童生徒は小学校6年生男子12人(3.5%)、小学校6年生女子7人(2.3%)、中学校2年生男子6人(1.9%)、中学校2年生女子13人(4.0%)で平成27年度の結果と比べ大きく変化なかった。 肥満度20以上の児童生徒は小学生男子で209人(10.2%)、小学生女子で142人(7.6%)、中学生男子で101人(9.7%)、中学生女子で92人(9.2%)で小中学生で増加傾向であった。 令和2年度は生活習慣病予防教育は未実施。 <p>【課題】 将来の生活習慣病予防のため、健診の血液検査結果から子ども自身が自分の体の状態を理解し、食生活習慣の改善ができるよう学童期から食を中心とした学習を支援していく。指導を実施していくにあたり学校と連携し、情報共有が必要である。</p>	<p>自分の健康に関心を持ち、食と健康についての知識や技能を習得し、規則正しい生活習慣を確立することで子どものころから生活習慣病を予防する。</p>
基本方針3・2 命の教育実施に協力します	<p>■命の教育の協力について</p> <ul style="list-style-type: none"> 高校生年齢での妊娠は平成27年度2件、令和2年度も2件であった。思春期のうちから性について学習し、命の大切さ、いとおしさを体感できる機会を持てるよう、教育委員会と連携して「命の教育」の学習に取り組んでいる。 少子化の中、身近に乳幼児がおらず、出産後初めて赤ちゃんの世話をする親もいる。生後3か月までの子育てに自信がもてない親は36.8%であった。 [資料集 p 26-3-(1)-1)-①] 喫煙については、平成29年度厚生労働科学研究(尾崎班)より、30日間で1日でも喫煙したことのある中学生は男子0.4%、女子0.4%と報告があり、平成22年度統計と比較すると減少している。 飲酒防止については、平成29年度厚生労働科学研究(尾崎班)より、30日間で1日でも飲酒したことがある中学生は男子3.6%、女子2.7%、高校生は男子10.4%、女子8.0%と学年があがるにつれ飲酒率が高くなっている。 保健所の出前講座の喫煙防止を受講した学校は2校、命の教育事業を受講した学校は5校であった。 <p>【課題】 学童期における心身の健康づくりは、次世代の健康につながる重要な保健対策であることから、正しい知識や行動を身につけ、情報を自ら得て適切な行動をとることができるよう学習を継続していく必要がある。保健や医療の関係者だけでなく、保護者の協力も必要ことから教育委員会と連携して実施していく。</p>	<p>命や性の尊さについて学ぶことにより、子どものころからの健やかな母性・父性を育て、望まない妊娠を防ぐ方法を知る。</p> <p>喫煙や多量飲酒が身体に及ぼす影響について理解し、未成年の喫煙や飲酒を予防する。将来の生活習慣病予防へつなげる。</p>

指標			具体的な取り組み
項目	現状	目標	
1) 養護教諭との打合せ 2) 食育推進会議の開催	実施 年2回	継続実施 継続実施	<p>事業3-1 栄養教諭・学校栄養士と連携し食育を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 保育園、幼稚園、栄養教諭、養護教諭、学校栄養士、保健所、農林関係者による食育推進会議を実施し情報の共有や食育推進体制を検討する。 ② 食育研修会及び食育推進イベントを協働実施する。 ③ 学校健診後の生活習慣病予防教育について支援、協力する。 ④ モデル地区の小中学校(阿木)で減塩取組みを実施。
1) 命の教育推進会議で情報共有 2) 小中学校で防煙、飲酒防止教育に取り組む学校の数	全校実施 全校実施	継続実施 継続実施	<p>事業3-2-1 教育委員会、小中学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 教育委員会主催の「命の教育推進会議」で母子保健の現状、課題など情報提供し、今後の課題解決について教育委員会、小中学校担当者と情報共有する。 <p>事業3-2-2 学校における防煙、飲酒防止教育の取り組みの支援、連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 防煙教育については恵那保健所、薬剤師会との情報共有を図る。 ② 飲酒防止教育については、今後も東濃断酒会など関係機関と連携していく。

骨子4 子どもの感染症予防

	現状と課題	目指す姿(小目標)
基本方針4・1 定期予防接種の接種率を高めます	<p>■予防接種の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、16歳以下の定期接種の種類は13種類（3種混合、不活化ポリオを含む）。 ・令和3年度は、日本脳炎ワクチンの供給量が不足したため、接種は国が示す優先順位に基づき実施している。 ・ヒトパピローマウイルス（子宮頸がん予防）ワクチンは、令和2年10月より高校1年生へ定期接種の案内の通知を始めた（積極的に勧奨の通知ではなく、公費助成をすることを通知。接種率は微増している）。 ・令和3年度から12歳以上を対象に、新型コロナウイルスワクチンの接種を開始した。 <p>■予防接種体制に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度から、BCG以外は全て個別接種で実施している。 ・新型コロナウイルスワクチンの5歳以上12歳未満の接種を実施する。 ・ヒトパピローマウイルス（子宮頸がん予防）ワクチンの積極的勧奨の差し控えは令和3年11月26日で終了した。今後、定期接種の対象者に接種の機会を逃した方を追加される。 <p>【課題】</p> <p>乳幼児期に接種する予防接種は保護者の関心も高いが、種類が多く戸惑う保護者もいる。また、インターネット等で予防接種の情報を得て、予防接種の必要性について様々な捉え方をしている。</p> <p>追加接種の接種率が低下する傾向があるため、予防接種に対する正しい知識についての普及啓発と情報提供を行う必要がある。</p> <p>新型コロナワクチン接種については国の方針を確認し整備する。</p>	<p>予防効果の高い標準的な接種期間に接種を受け、感染症の発症や重症化を予防することができる。</p>
基本方針4・2 感染症予防について情報提供を行います	<p>■感染症の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の定期接種のワクチンが増え、水痘や髄膜炎等の患児が減少している。 ・新型コロナウイルス感染症の感染対策に伴い、他の感染症の流行が減少傾向にある。 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止する。 <p>【課題】</p> <p>感染症の症状の程度を発熱の有無で判断する等、認識が十分でない保護者がいる。感染症の動向に併せた正しい知識や予防・対応法等の普及啓発をする必要がある。</p> <p>新型コロナウイルス感染に関する感染状況、感染対策の徹底について等情報を広く周知し感染拡大を防止する必要がある。</p>	<p>適切な情報を把握することで、日常生活の中での感染症予防に親子で取り組むことができる。</p>

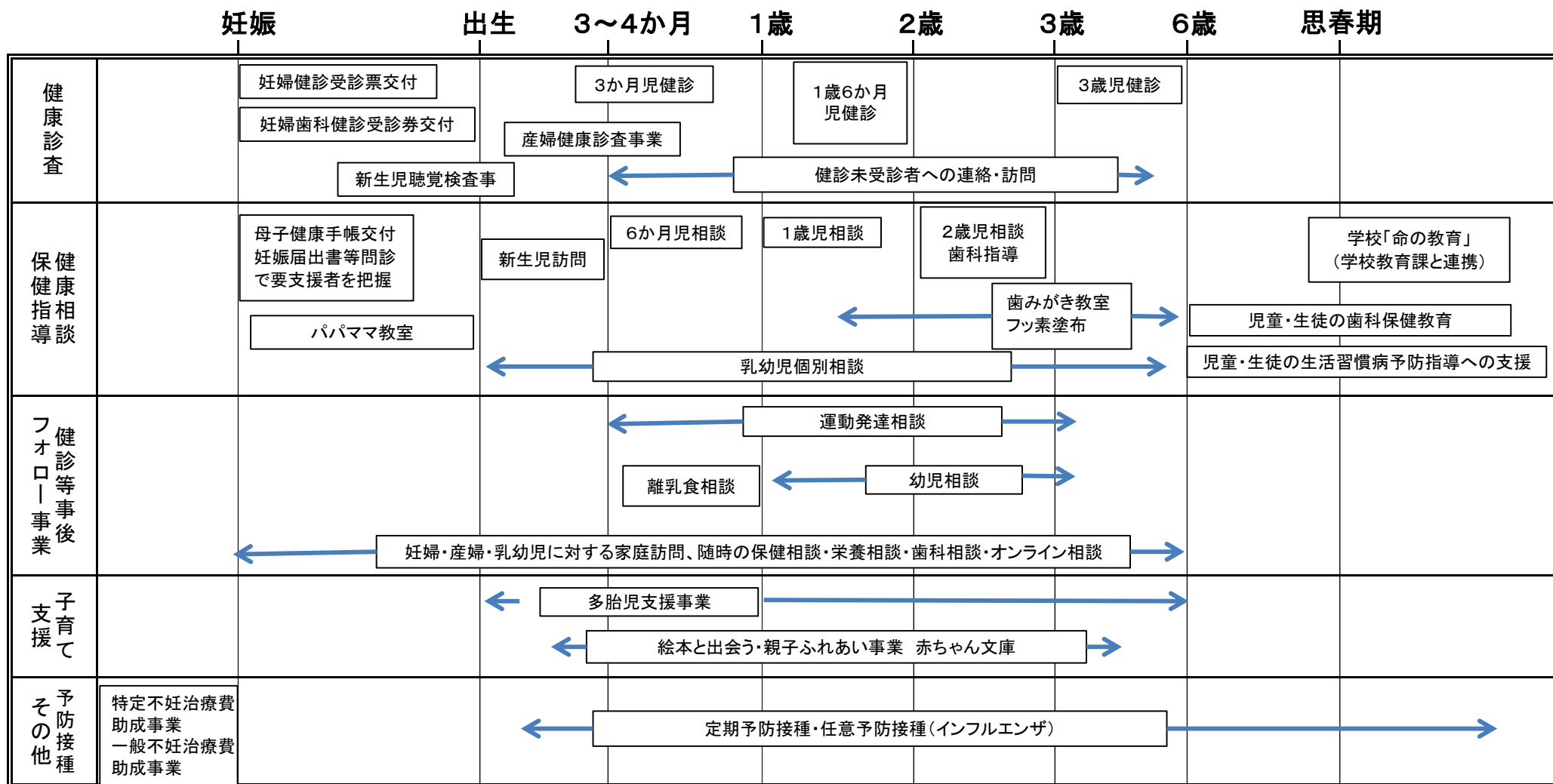
指標			具体的な取り組み
項目	現状	目標	
<p>1) 定期予防接種の接種率</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ BCG ・ 4 種混合（初回） （追加） ・ ヒブ（初回） （追加） ・ 小児用肺炎球菌（初回） （追加） ・ B型肝炎 ・ ロタ（1価と5価） ・ 麻しん風しん（1期） （2期） ・ 水痘 ・ 日本脳炎（1期） （2期） ・ 二種混合 ・ 子宮頸がん予防 （積極的に接種勧奨をしていない） 	<p>R2年実績</p> <p>96.5%</p> <p>96.8%</p> <p>89.0%</p> <p>97.2%</p> <p>88.3%</p> <p>97.2%</p> <p>88.5%</p> <p>95.6%</p> <p>98.5%</p> <p>98.4%</p> <p>95.6%</p> <p>80.1%</p> <p>68.9%</p> <p>56.3%</p> <p>61.6%</p> <p>2.6%</p>	<p>維持</p> <p>維持</p> <p>90.0%</p> <p>維持</p> <p>90.0%</p> <p>維持</p> <p>90.0%</p> <p>維持</p> <p>維持</p> <p>維持</p> <p>90.0%</p> <p>90.0%</p> <p>90.0%</p> <p>90.0%</p> <p>—</p>	<p>事業4-1-1 接種勧奨、指導、相談の実施</p> <p>①機会を捉えて勧奨・啓発を継続して行う。</p> <p>②定期接種の案内は個別通知を実施している。また、接種状況等に応じて接種勧奨を実施する。</p> <p>③個別相談を継続して実施する。</p> <p>④幼稚園・保育園・小中学校（養護教諭）関係等との連携・情報共有を行う。</p> <p>事業4-1-2 受けやすい予防接種体制づくり</p> <p>①保護者へ予防接種についての情報提供を随時行う。</p> <p>②他市、国の予防接種状況の把握を行う。</p> <p>③個別接種医療機関と随時個別接種についての相談・調整を行う。</p> <p>④新型コロナワクチン接種体制を整備する。</p>
<p>市民安全情報ネットワークの登録者数</p>	<p>28,675人</p>	<p>増加</p>	<p>事業4-2-1 感染症予防に努める</p> <p>①感染症の発生状況・学級閉鎖等の状況を県リアルタイム感染情報システムを通じて把握を行う。</p> <p>②必要に応じて、感染症に関する初期症状、対応方法、感染状況等の情報提供を実施し、感染の拡大を防ぐ。</p> <p>③「市民安全情報ネットワーク」や県感染症サーベイランスをPRする。</p> <p>④啓発ポスターやチラシなどを随時配布、設置する。</p> <p>⑤幼稚園・保育園・小中学校（養護教諭）等への情報提供や情報の共有を図る。</p>

骨子5 歯と口腔の健康づくりの支援

	現状と課題	目指す姿(小目標)
母基本 子の方 歯の針 の5 健康1 を妊 守娠 り中 まか す	<p>■妊婦歯科健診の状況、結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度の妊婦歯科健診の受診率は41.1%であった。 健診結果を見ると、歯肉に炎症のある妊婦が78.9%おり、口腔環境の改善が必要な妊婦が多い。 [資料集 p 22-1-(8)] <p>【課題】</p> <p>妊婦の進行した歯周病が低出生体重児の出産や早産のリスクを高めることから、妊娠前から歯科保健の意識付けをしていくことが、生まれてくる子どもの健康のためにも大切である。新型コロナウイルス感染症の影響により、集団での教室が開催できないため、個別に歯科保健指導が実施できる体制づくりが必要である。</p>	<p>妊婦の口腔状態が母体や胎児に影響を与えることを理解し、自身と子どもの適切な口腔管理が日常的に実践できる。</p>
基本 口腔 機能の 2 獲得 を期 の支 援し ます 歯予 防と	<p>■幼児期の歯科保健指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> 3歳児健診でむし歯のない子どもは、令和2年度94.8%と目標である90.0%を達成している。 [資料集 p 22-1-(9)] 3歳児健診で保護者が仕上げ磨きをしている割合は令和2年度98.3%と高く、むし歯予防の意識が高いことがわかる。 [資料集 p 22-1-(9)] 幼稚園、保育園全園ではみがき教室を実施し、むし歯予防・口腔機能の発達支援を行っている。 <p>【課題】</p> <p>3歳児健診でむし歯のない子どもの割合を維持するため、現在実施している事業を継続し、健全な口腔機能の発達を支援する必要がある。</p> <p>障がいを持つ子どもは口腔清掃や歯科治療が困難なケースが多く、むし歯予防や口腔機能の獲得に問題を抱えることが多いため、支援が必要である。</p>	<p>健全な乳歯列を保つことが健全な永久歯を導くこと、口腔機能の獲得につながることを理解し、はみがき習慣や適切な食生活を身につける。</p>
基本 保健 活動 を支 援し ます の 学 生 期	<p>■学校の歯科保健学習・指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内小学4年生・中学1年生を対象に、健康医療課歯科衛生士による歯科保健指導を実施している。令和2年度は、27校で1,389人に実施した。 12歳児の一人平均むし歯数は、令和2年度0.27本であり「健康なかつがわ21(第二次)」の指標である0.5本以下を達成している。 [資料集 p 22-1-(11)] 歯肉に炎症のある中学生は30.7%いる。 [資料集 p 22-1-(10)] <p>【課題】</p> <p>歯肉に炎症のある中学生が増加傾向にある。自分にあつた口腔清掃方法を習得し、将来に向けた歯周病予防の知識を学童期から普及させる必要があるため、学校、学校歯科医と連携し、現状の指導を継続実施していく必要がある。歯の生えかわりに伴う、成長段階に応じた咀嚼能力の向上等を支援する必要がある。</p>	<p>生涯にわたり歯、口腔の健康を維持できるよう、自分にあつた口腔清掃の方法を習得し、生活習慣と関連させた適切な歯科保健行動を身につける。</p>

指標			具体的な取り組み
項目	現状	目標	
1)妊婦歯科健診の受診率	41.1%	増加	<p>事業5-1-1 妊婦歯科健診の充実</p> <p>①妊婦歯科健診の継続実施。</p> <p>②健診票等を活用し、妊婦の口腔環境が胎児に与える影響や歯周病予防の重要性をPRする。</p> <p>事業5-1-2 妊娠中から継続した歯科保健指導の実施</p> <p>①妊婦歯科健診時に、歯科保健指導を実施できる体制を整える。</p> <p>②保護者の口腔状態や生活習慣が、子どものむし歯発生に影響するため、妊娠中から歯科保健指導を実施し、口腔衛生意識を高めてもらう。</p>
1)3歳児健診でむし歯のない子どもの割合 2)3歳児健診で「保護者が毎日仕上げ磨きをしている」と答えた保護者の割合	94.8% 98.3%	維持 維持	<p>事業5-2-1 幼児期の歯科保健指導の充実</p> <p>①子どもの相談事業での仕上げ磨きの個別指導の徹底とフッ化物応用の推奨をする。</p> <p>②幼稚園、保育園ではみがき教室の継続実施。</p> <p>事業5-2-2 むし歯発症リスクの高い子どもや障がい児への指導の充実</p> <p>①むし歯発症リスクの高い子どもは、食事・生活習慣の改善が必要になるため、保健師・栄養士と連携し、継続的な指導を実施する。</p> <p>②はみがき教室参加勧奨と医療機関の受診勧奨を行う。</p> <p>③障がいや疾患を持つ子どもには、関係機関と連携し歯科相談を実施する等、より柔軟な対応をする。</p> <p>事業5-2-3 口腔機能の発達支援</p> <p>①健全な口腔機能が獲得できない場合のリスクを認識してもらい、 カ 噛ミン グ30^{サンマル}(※)の推進と口腔習癖についての指導を実施する。</p> <p>※噛ミン グ 30 : 歯科領域から食育推進のため、ひと口30回以上噛むこと。</p>
1)歯科保健学習に関わっている学校の数	27校	維持	<p>事業5-3-1 学校の歯科保健学習・指導の充実</p> <p>①養護教諭、学校歯科医と連携し、小学4年生・中学1年生を対象とした歯科保健指導を継続実施。</p> <p>②学童期から、歯周病予防・セルフケア能力の向上を支援する。</p> <p>③噛ミン グ 30を推進し、口腔機能の発達を支援する。</p>

IV. 母子保健事業体系



母子保健関係機関

- ・恵那医師会 ・中津川歯科医師会 ・恵那保健所 ・東濃こども相談センター
- ・主任児童委員 ・社会福祉協議会
- ・市教育委員会: 学校教育課、幼児教育課、発達支援センター、子育て支援センター、幼稚園、保育園、小学校、中学校
- ・市関係部局: 子ども家庭課、社会福祉課、生涯学習スポーツ課、図書館、農業振興課、定住推進課、政策推進課

中津川市母子保健関連会議

- ・母子保健連絡協議会 ・食育推進会議
- ・子ども・子育て会議 ・療育システムネットワーク会議 ・発達支援会議
- ・要保護児童、DV防止対策地域協議会
- ・命の教育推進会議 ・就園検討会 ・教育支援委員会

資 料 集

1. 中津川市母子保健統計

(1) 出生数・率

(令和元年)

	出生数 (人数)	出生率 (人口千対)	合計特殊出生率
全 国	865,239	7.0	1.36
岐 阜 県	12,776	6.6	1.38
管 内	749	6.0	1.51
中津川市	501	6.6	1.58
恵 那 市	248	5.1	1.39

※合計特殊出生率=15～49歳までの女性の
年齢別出生率を合計したもの
1人の女性が生涯に産む子どもの数を表す

(2) 出生時体重別出生数・率

(令和元年)

	2500g未満		2500g以上		不詳 人数
	人数	出生百対	人数	出生百対	
全 国	81,462	9.4	783,654	90.6	123
岐 阜 県	1,256	9.8	11,519	90.2	1
管 内	72	9.6	677	90.4	-
中津川市	48	9.6	453	90.4	-
恵 那 市	24	9.7	224	90.3	-

	1000g未満		1000～1500g未満		1500～2000g未満		2000～2500g未満	
	人数	出生百対	人数	出生百対	人数	出生百対	人数	出生百対
全 国	2,646	0.3	3,821	0.4	10,368	1.2	64,627	7.5
岐 阜 県	34	0.3	70	0.5	151	1.2	1001	7.8
管 内	1	0.1	7	0.9	8	1.1	56	7.5
中津川市	0	0	3	0.6	5	1	40	8
恵 那 市	1	0.4	4	1.6	3	1.2	16	6.5

出典: 恵那の公衆衛生2020(令和元年統計)

(3) 妊婦一般健康診査

	受診券 発行延 べ件数	平成29年度 受診結果(延べ人数)					受診券 発行延 べ件数	平成25年度 受診結果(延べ人数)				
		異常なし	異常あり					異常なし	異常あり			
			要指導	要精密	要医療	計			要指導	要精密	要医療	計
岐 阜 県	169157	124909	2969	401	9767	13137	189,260	139,485	3,328	408	10,084	13,820
管 内	12,610	9738	111	9	444	564	13,700	10,825	254	4	508	766
中津川市	8,121	6498	74	7	163	244	8,450	6,842	184	0	165	349
恵 那 市	4,489	3240	37	2	281	320	5,250	3,983	70	4	343	417

異常なし	平成29年度 受診結果(受診数百対)				異常なし	平成25年度 受診結果(受診数百対)			
	異常あり					異常あり			
	要指導	要精密	要医療	計		要指導	要精密	要医療	計
90.5	2.2	0.3	7.1	9.6	73.7	1.8	0.2	5.3	7.3
94.5	1.1	0.1	4.3	5.5	79.0	1.9	0.0	3.7	5.6
96.4	1.1	0.1	2.4	3.6	81.0	2.2	0.0	2.0	4.1
91.0	1.0	0.1	7.9	9.0	75.9	1.3	0.1	6.5	7.9

出典: 母子保健事業報告 令和元年度版

(4) 乳幼児健診実施状況

年度	3か月児			1歳6か月児			3歳児		
	対象者数 (人)	受診実人数 (人)	受診率 (%)	対象者数 (人)	受診実人数 (人)	受診率 (%)	対象者数 (人)	受診実人数 (人)	受診率 (%)
平成30年	536	536	100.0	566	557	98.4	598	598	100.0
令和元年	510	510	100.0	519	505	97.3	490	474	96.7
令和2年	468	466	99.6	570	568	99.7	639	633	99.1

※1歳6か月児健診、3歳児健診は新型コロナウイルス感染症の影響により回数を増やし1回の参加人数を少なくして実施した。

出典: 中津川市の保健より(令和2年度版)

(5) 令和2年度年度健診総合判定者内訳(実人数)

	異常なし (人)	要観察 (人)	要精密 (人)	要医療 (人)
3か月児	310	113	9	34
1歳6か月児	371	168	11	18
3歳児	455	149	10	19

出典: 中津川市の保健より(令和2年度版)

(6) 令和2年度要精密検査者の受診率

	要精密 (人)	受診者数 (人)	受診率 (%)
3か月児	9	9	100.0
1歳6か月児	11	10	90.9
3歳児	10	9	90.0

出典: 母子保健事業報告 令和2年度報告

(7) 3歳児尿検査提出者数

令和2年度		
対象者数	提出者数 (人)	割合 (%)
633	617	97.5

出典: 母子保健事業報告 令和2年度報告

(8) 妊婦歯科健診の結果

年度	対象者数(人)	受診者数(人)	受診率(%)	歯肉に炎症のある者の割合(%)
平成30年	517	208	40.2	78.4
令和元年	451	197	43.7	76.6
令和2年	438	180	41.1	78.9

出典: 中津川市の保健より(令和2年度版)

(9) 1歳6か月児、3歳児歯科健診の結果

年度	1歳6か月児					3歳児				
	対象者 (人)	受診者数 (人)	受診率 (%)	むし菌のない者の割合(%)	仕上げ磨きをしている者の割合(%)	対象者 (人)	受診者数 (人)	受診率 (%)	むし菌のない者の割合(%)	仕上げ磨きをしている者の割合(%)
平成30年	566	555	98.1	100.0	95.5	598	593	99.2	94.1	97.0
令和元年	519	501	96.5	99.8	95.6	490	470	95.9	95.3	96.6
令和2年	519	501	96.5	99.8	96.5	639	633	99.1	94.8	98.3

出典: 中津川市の保健より(令和2年度版)

(10) 中学生の歯科健診の結果

年度	検査人数(人)	むし菌のある者 (人)	むし菌のある者の割合(%)	DMF歯数(本) (1人平均むし菌数)	歯肉に炎症のある者の割合(%)
平成30年	2,058	467	22.7	0.51	23.4
令和元年	1,992	400	20.1	0.45	27.2
令和2年	2,015	406	20.1	0.44	30.7

出典: 保健第55・56・57集(中津川市学校保健会)

(11) 12歳児の1人平均むし菌数(本)

年度	1人平均むし菌数
平成30年	0.32
令和元年	0.36
令和2年	0.27

出典: 保健第55・56・57集(中津川市学校保健会)

(12) 妊娠週数別母子健康手帳交付状況

年度	全交付数(件)	満11週以内(件)	満12週～19週(件)	満20週～27週(件)	満28週～分娩(件)
平成30年	517	482	32	3	0
令和元年	462	431	26	3	2
令和2年	438	412	22	3	1

出典: 中津川市の保健より(令和2年度版)

(13) 妊婦教室受講状況(1コース3回実施)

年度	妊婦(人)	受講者人数(人)		受講率(%)
平成29年	563	168	105	20.5
平成30年	517	100	73	14.1
令和元年	447	62	62	13.9

出典: 中津川市の保健より(令和元年度版)

(14) パパママ教室

年度	実施回数(回)	初産婦数(人)	受講者数(組)	受講率(%)
平成30年	6	227	98	43.2
令和元年	5	183	82	44.8
令和2年	2	28	10	35.7

出典: 中津川市の保健より(令和2年度版)

※令和2年3月から新型コロナウイルス感染症拡大防止のため集団の教室を中止し、
オンライン形式に変更して実施

(15) 不妊治療費助成事業の状況

年度	特定不妊治療			一般不妊治療			
	助成数		妊娠成立数(件)	年度	助成数		妊娠成立数(件)
	実人数 (人)	延人数 (人)			実人数 (人)	延人数 (人)	
平成30年	40	61	26	平成30年	26	26	8
令和元年	48	67	23	令和元年	32	34	6
令和2年	43	65	22	令和2年	23	23	5

出典: 中津川市の保健より(令和2年度版)

(16) こんにちは赤ちゃん事業

対象者	対象数(人)	訪問件数(件)	訪問実施率(%)
平成30年生まれ	534	531	99.4
令和元年生まれ	501	501	100
令和2年生まれ	426	420	98.6

出典: 中津川市の保健より(令和2年度版)

(17) 6か月児・1歳児・2歳児相談

年度	6か月児相談			1歳児相談			2歳児相談		
	該当者数 (人)	受診者数 (人)	受診率 (%)	該当者数 (人)	受診者数 (人)	受診率 (%)	該当者数 (人)	受診者数 (人)	受診率 (%)
平成30年	553	553	100	575	568	98.8	552	550	99.6
令和元年	464	457	98.5	457	457	100.0	532	511	96.1
令和2年	354	309	87.3	386	376	97.4	311	299	96.1

出典: 中津川市の保健より(令和元年度版)

※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、相談事業を一部中止とした。

(18) 乳幼児なんでも相談(各地区延べ人数)

年度	中津地区					坂下	川上	山口	福岡	蛭川	付知	加子母
	中津	坂本	落合	苗木	阿木							
平成29年	883	190	112	164	78	273	62	145	241	132	182	128
平成30年	797	237	126	284	115	220	64	117	220	198	227	130
令和元年	691	255	143	211	110	202	50	82	200	134	188	100

出典: 中津川市の保健より(令和元年度版)

(19) 定期予防接種実施状況

年度	ヒブ				小児肺炎球菌				4種混合(*)			
	初回接種		追加接種		初回接種		追加接種		初回接種		追加接種	
	人数 (人)	接種率 (%)	人数 (人)	接種率 (%)	人数 (人)	接種率 (%)	人数 (人)	接種率 (%)	人数 (人)	接種率 (%)	人数 (人)	接種率 (%)
平成30年	1,581	94.9	584	84.5	1,585	94.9	579	85	1,594	94.4	691	88.7
令和元年	1,506	98.2	524	84.5	1,550	98.4	538	86.8	1,576	98.3	539	87.1
令和2年	1,467	97.2	545	88.3	1,384	97.2	525	88.5	1,406	96.8	560	89

年度	麻疹風しん混合				3種混合(*)				ロタウイルス			
	第1期		第2期		初回		追加		ロタテック 5価		ロタリックス1価	
	人数 (人)	接種率 (%)	人数 (人)	接種率 (%)	人数 (人)	接種率 (%)	人数 (人)	接種率 (%)	人数 (人)	接種率 (%)	人数 (人)	接種率 (%)
平成30年	579	95.2	622	94	0	0.0	1	1.4				
令和元年	537	96.6	622	94.1	0	0.0	1	2.1				
令和2年	509	98.4	570	95.6	0	0.0	0	0	210	40.3	229	58.1

年度	日本脳炎		2種混合(*)		ヒトパピローウイルス		BCG		水痘		B型肝炎	
	人数 (人)	接種率 (%)	人数 (人)	接種率 (%)	人数 (人)	接種率 (%)	人数 (人)	接種率 (%)	人数 (人)	接種率 (%)	人数 (人)	接種率 (%)
平成30年	3,114	56.3	805	53.8	0	0.0	539	97.1	1,079	73.4	1,558	89.6
令和元年	2,534	68.9	587	60.8	6	0.7	521	96.3	1,079	82.2	1,556	75.9
令和2年	2,392	73.3	585	61.6	57	2.6	473	96.5	1,057	80.1	1,382	95.6

出典: 中津川市の保健より(令和2年度版)

《混合ワクチンの説明》

2種混合: ジフテリア・破傷風

3種混合: ジフテリア・百日せき・破傷風

4種混合: ジフテリア・百日せき・破傷風に不活化ポリオが加わったもの

(20) 任意予防接種実施状況

年度	インフルエンザ	
	人数 (人)	接種率 (%)
平成30年	8,407	47.7
令和元年	9,002	51.9
令和2年	9,807	66.8

出典: 中津川市の保健より(令和2年度版)

※令和2年度は高校生以下が対象

2. 妊婦に関するアンケート結果について

対象者：令和元年度妊婦教室アンケートまとめ 参加者62人
令和元年5月～令和2年1月までのアンケート結果

(1) 食生活について

1) 現在の食生活で心配や不安はありますか

年度	心配・不安はない		心配・不安がある		無回答	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
令和元年	23	37.1	21	33.9	18	29.0
平成27年	45	63.4	14	19.7	12	16.9

・食生活の心配や不安のある方は33.9%いる（下記 具体的な不安内容）

- ・体重がすごい
- ・目標とされる量が食べれない(特に炭水化物)
- ・胸焼けして量を食べれない、分割にして食べるのも辛い
- ・前回の妊娠時貧血になったので食事に気を付けたい
- ・塩分の計算が難しい、めんどうに感じる
- ・野菜が不足気味
- ・双子の場合体重が増えそうな気がする。増加しないように気を付けるにはどうしたらよいか
- ・3食バランスよく作れない
- ・仕事から帰宅後甘い物を食べてしまう
- ・弁当のおかずで悩んでいる
- ・便秘がひどく悩んでいる

2) 朝食は食べますか

年度	あり		なし		未記入		合計	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
令和元年	62	100.0	0	0.0	0	0.0	62	100.0
平成27年	71	100.0	0	0.0	0	0.0	71	100.0

3) 朝食に野菜を摂取していますか

年度	摂取なし		1品		2品		3品以上		未記入		朝食欠食	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
令和元年	18	29.0	32	51.6	12	19.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
平成27年	19	26.8	27	38.0	18	25.4	5	7.0	0	0.0	0	0.0

・朝食なしの方は、平成27年度は0%だったが、令和元年度も0%であった。

・朝食に野菜を含む料理の摂取なしの方は、平成27年度は26.8%であったが令和元年度は29.0%に上がった

4) 調理実習参加希望者数

	人数(人)	割合(%)
あり	33	53.2
なし	23	37.1
未回答	6	9.7

参加した理由(複数回答)

食事量、バランスがわからない	20
塩分などの味付けがわからない	4
料理が苦手、作れない	6
その他	
良い食事が作りたい	1
メニューを増やしたい	1
妊婦友達を増やしたい	1

・調理実習参加希望者は62人中33人(53.2%)であった。体験することでより具体的な指導を求めていることがわかる

(2) 生活リズムについて

1) 普段の起床時間に最も近いのはどれですか

年度	午前6時前		午前6時台		午前7時台		午前8時台		午前9時台		午前10時以降		不規則		無回答	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
令和元年	9	14.5	33	53.2	11	17.7	2	3.2	1	1.6	0	0.0	0	0.0	6	9.7
平成27年	10	14.1	37	52.1	15	21.1	4	5.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	7.0

2) 普段の就寝時間に最も近いのはどれですか

年度	午後8時前		午後8時台		午後9時台		午後10時台		午後11時台		深夜12時以降		不規則		無回答	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
令和元年	0	0.0	5	8.1	9	14.5	10	16.1	22	35.5	10	16.1	0	0.0	6	9.7
平成27年	0	0.0	1	1.4	7	9.9	25	35.2	25	35.2	8	11.3	0	0.0	5	7.0

3. 子育て環境に関するアンケートまとめ

対象者：令和2年4月～令和3年3月までの間で実施した乳幼児健診受診者からアンケートを回収

(1) アンケート集計

1) 育児について

① 育児に自信が持てないことがありますか

	全くない		あまりない		時々ある		よくある	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
3か月児	84	19.8	185	43.5	146	34.4	10	2.4
1.6歳児	67	13.3	184	36.7	214	42.6	37	8.0
3歳児	73	11.5	252	39.6	262	41.2	49	8.3
合計	224	14.3	621	39.7	622	39.8	96	6.5

② お母さんはゆったりとした気分でお子さんと過ごせる時間がありますか

	はい		いいえ		なんとも言えない	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
3か月児	399	86.4	8	1.7	55	11.9
1.6歳児	429	80.0	7	1.3	100	18.7
3歳児	425	68.3	27	4.3	170	27.3
合計	1253	77.3	42	2.6	325	20.1

③ 数か月の間に、ご家庭で以下のことがありましたか

	しつけのし過ぎがあった		感情的に叩いた		乳幼児だけを家に残して外出した		感情的な言葉でどなった		子どもの口をふさいだ		いずれも該当しない		いずれかひとつでも回答した人	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
3か月児	1	0.2	4	0.9	4	0.9	21	4.8	2	0.5	412	94.1	26	5.9
1.6歳児	6	1.2	26	5.1	5	1.0	91	17.9	2	0.4	399	78.5	109	21.5
3歳児	23	3.8	44	7.2	4	0.7	224	36.7	-	-	362	59.2	249	40.8
合計	30	1.9	74	4.8	13	0.8	336	21.6	4	0.3	1173	75.3	384	24.7

④ 赤ちゃんが、どうしても泣き止まない時などに、赤ちゃんの頭を前後にガクガクするほど激しく揺さぶることによって脳障害が起きること(乳幼児揺さぶられ症候群)を知っていますか

	はい		いいえ	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
3か月児	439	95.0	23	5.0
1.6歳児	527	95.8	23	4.2
3歳児	589	95.9	25	4.1
合計	1555	95.6	71	4.4

⑤ 育て方や子どもとの接し方がわからず落ち込んでしまうことがありますか

	全くない		あまりない		時々ある		よくある	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
3か月児	148	34.7	198	46.4	79	18.5	2	0.5
1.6歳児	115	22.2	250	48.2	136	26.2	18	3.6
3歳児	123	19.8	266	42.9	204	32.9	27	4.6
合計	386	33.6	714	62.1	3	0.3	47	4.3

(2) 経年的アンケート集計

1) 育児について

① 感情的な言葉で怒鳴ったと回答した人の経年的割合

	3か月児健診		1歳6か月児健診		3歳児健診	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
平成30年	18	3.5	104	18.8	216	36.8
令和元年	21	4.2	92	18.5	150	32.6
令和2年	21	4.5	91	16.6	224	35.7

② 感情的に叩いたと回答した人の経年的割合

	3か月児健診		1歳6か月児健診		3歳児健診	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
平成30年	2	0.39	32	5.8	60	10.2
令和元年	3	0.60	32	6.4	36	7.8
令和2年	4	0.86	26	4.8	44	7.0

③ 3歳児健診で、①②の項目にひとつでも“はい”と回答した人の経年的割合

	いずれか1つでも	
	人数 (人)	割合 (%)
平成30年	253	46.0
令和元年	174	39.9
令和2年	249	40.8

2) 交流会の参加

保育園や児童館など、子どもの集まる交流会に参加していますか

	参加なし	参加あり	合計
平成28年	108 19.8	533 97.8	641 100%
平成29年	91 16.7	458 84.0	549 100%
平成30年	93 16.8	459 83.2	552 100%
令和元年	71 14.3	427 85.7	498 100%
令和2年	181 33.1	366 66.9	547 100%

3) 虐待件数

年度	虐待件数
	件数 (件)
平成29年	7
平成30年	22
令和元年	36
令和2年	19

市民福祉部の事業概要(令和3年4月1日)より抜粋

4) 母子保健随時相談件数

年度	件数	
	延べ (件)	件数 (件)
平成28年	1136	675
平成29年	1397	760
平成30年	1495	809
令和元年	1824	978
令和2年	3038	1433

健康カルテシステムより

2) お子さんの日常生活について

対象：令和2年度実施の1歳児相談、1歳6か月健診、3歳児健診のおたずね(問診)の集計

集計数：1歳児相談 360人
 1歳6か月児健診 545人
 3歳児健診 627人

①お子さんの起床時間に近いものを教えてください

	午前6時前		午前6時台		午前7時台		午前8時台		午前9時台		午前10時以降		不規則		無回答	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
1.6歳児	24	4.4	303	55.6	169	31.0	24	4.4	1	0.2	0	0.0	0	0.0	24	4.4
3歳児	21	3.3	333	53.1	237	37.8	25	4.0	3	0.5	0	0.0	0	0.0	12	1.9
合計	45	3.8	636	54.3	406	34.6	49	4.2	4	0.3	0	0.0	0	0.0	36	3.1

②お子さんの就寝時間に近いものを教えてください

	午後8時前		午後8時台		午後9時台		午後10時台		午後11時台		深夜12時以降		不規則		無回答	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
1.6歳児	27	5.0	258	47.3	212	38.9	23	4.2	1	0.2	0	0.0	0	0.0	24	4.4
3歳児	16	2.6	230	36.7	324	51.7	45	7.2	3	0.5	1	0.2	0	0.0	8	1.3
合計	43	3.7	488	41.6	536	45.7	68	5.8	4	0.3	1	0.1	0	0.0	32	2.7

・平成27年と比べ、起床時間が8時以降のお子さんの割合は5.6%→4.5%と減少した

・就寝時間においても10時台以降のお子さんの割合は6.9%→6.2%と減少した

③お子さんの朝食のとり方について、もっともあてはまるものはどれですか

種類	ほぼ毎日 食べる		週4～5日 食べる		週2～3日 食べる		ほとんど 食べない		無回答	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
1.6歳児	532	97.6	5	0.9	3	0.6	3	0.6	2	0.4
3歳児	602	96.0	14	2.2	4	0.6	4	0.6	3	0.5
合計	1134	96.8	19	1.6	7	0.6	7	0.6	5	0.4

④子どもと親の欠食クロス集計

		子どもの朝食摂取状況		
		毎日食べる	食べない ことがある	無回答
1.6歳児の親	毎日食べる	483	5	0
	食べないことがある	56	6	0
	無回答	6	0	2
3歳児の親	毎日食べる	559	6	0
	食べないことがある	67	16	0
	無回答	1	0	3

・朝食を食べないお子さん33人のうち、親も朝食を食べてない方は22人であった

⑤お子さんは一日に何時間テレビ・ビデオをみますか

種類	見ない (見せない)		1時間未満		1～2時間		3時間以上		無回答	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
1.6歳児	2	0.4	159	29.2	268	49.2	84	15.4	32	5.9
3歳児	2	0.3	174	27.8	304	48.5	109	17.4	38	6.1

・テレビ・ビデオを見る時間が3時間以上のお子さんの割合は8.6%→16.5%と増加した。

・コロナ禍において、家にいる時間が増えた為テレビの視聴時間が増加した可能性も高い

⑥スマートフォン・タブレットなどの視聴時間

種類	見ない (見せない)		1時間未満		1～2時間		3時間以上		無回答	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
1.6歳児	24	4.4	385	70.6	32	5.9	5	0.9	96	18.1
3歳児	45	7.2	415	66.1	79	12.6	24	3.8	64	10.2

(3) 健診時おたずね表集計

対象：令和2年度実施の1歳児相談、1歳6か月健診、3歳児健診のおたずね(問診)の集計

集計数：1歳児相談 360人
 1歳6か月児健診 545人
 3歳児健診 627人

1) 幼児の食事

① 子どもの食事で困っていることはありますか

	ある		ない		未回答		合計	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
1歳児	245	68.1	110	30.6	5	1.4	360	100.0
1.6歳児	394	72.3	146	26.8	5	3.4	545	100.0
3歳児	428	68.3	189	30.1	10	1.6	627	100.0

困っていることの内容

	1位	2位	3位	4位
1歳児	噛まない	遊び食べ	早食い	散らかし食べ
1.6歳児	遊び食べ	ムラ食べ	噛まない	口から出す
3歳児	野菜嫌い	遊び食べ	食事に時間がかかる	ムラ食べ

- ・子どもの食事で困っていることがあると回答した割合は平成27年と比較すると1歳児65.8%→68.1%、1歳6か月児71.6%→72.3%、3歳児74.5%→68.3%であった
- ・困っていることは、1歳児「噛まない」、1歳6か月児「遊び食べ」、3歳児「野菜嫌い」であった。3歳児の野菜嫌いは4位→1位となった

② おやつについて

食事で困っている事で「食欲がない」「食べるのに時間がかかる」「少食」「遊び食べ」「ムラ食べ」があると答えたお子さんの状況(1歳児360人中76人、1歳6か月児545人中193人、3歳児627人中296人)

1日のおやつの回数

	1~2回		3回以上		欲しがるとき		その他		未記入	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
1歳児	48	63.2	1	1.3	7	9.2	20	26.3	0	0.0
1.6歳児	160	82.9	12	6.2	8	4.1	9	4.7	4	2.1
3歳児	230	77.7	22	7.4	20	6.8	23	7.8	1	0.3

食事記録を見て~おやつやジュースを食事の2時間以内に与えている

	昼前のみあり		夕食前のみあり		両方あり		2時間以上あいている		未記入	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
1.6歳児	18	9.3	23	11.9	31	16.1	79	40.9	42	21.8
3歳児	11	3.7	42	14.2	0	0.0	213	72.0	30	10.1

- ・おやつの回数は、6~8割の方が1日1~2回の適切な回数である
- ・困っていると回答した方の食事記録をみると食事前2時間以内におやつがある割合が1歳6か月児37.3%、3歳児17.9%であった。おやつを与える回数ではなく、与える時間が「遊び食べ」等に関係していることがわかる

③ 甘い飲み物について(1.6歳と3歳は本庁おたずねのみ)

甘い飲み物を良く飲むか

	はい		いいえ		未回答		合計	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
1歳児	18	5.0	333	92.5	9	2.5	360	100.0
1.6歳児	106	19.4	430	78.9	9	6.1	545	100.0
3歳児	172	27.4	438	69.9	17	2.7	627	100.0

種類(複数回答可)について

	野菜ジュース	100%ジュース	清涼飲料水	スポーツ飲料	乳飲料
1歳児	22.2	38.9	13.9	11.1	13.9
1.6歳児	22.8	34.7	13.0	6.2	23.3
3歳児	19.7	25.7	17.8	6.1	30.4

量

	100ml以下		100ml~		200ml~		300ml~		量の記載なし		合計	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
1歳児	8	44.44	7	38.89	2	11.1	1	5.6	0	0.0	18	100.0
1.6歳児	13	12.3	44	41.5	15	14.2	6	5.7	28	26.4	106	100.0
3歳児	25	14.5	62	36.0	46	26.7	6	3.5	33	19.2	172	100.0

- ・年齢が上がるに従って飲ませる割合が増えているが、飲む習慣が将来にわたって継続していかないために、味覚を形成する時期へのかかわりが重要である

④食事の食べ方

<1歳児>食事を自分で食べたがるか(手づかみ食べをするか)

はい		いいえ		未回答		合計	
人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
333	92.5	25	6.9	2	0.6	360	100.0

<1歳6か月児>自分で食事を食べるか

はい		いいえ		未回答		合計	
人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
493	90.5	45	8.3	7	1.3	545	100.0

<3歳児>箸を使って一人で食事をするか

はい		いいえ		未回答		合計	
人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
597	95.2	22	3.5	8	5.1	627	100.0

⑤母乳の有無

	あり		なし		未記入		合計	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
1歳児	139	38.6	218	60.6	3	0.8	360	100.0
1.6歳児	41	7.5	503	92.3	1	0.2	545	100.0

⑥哺乳びんの使用

	あり		なし		未記入		合計	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
1.6歳児	35	6.4	496	91.0	14	2.6	545	100.0

⑦牛乳を毎日飲ませるか

	はい		いいえ		未記入		合計	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
1.6歳児	460	84.4	82	15.0	3	0.6	545	100.0
3歳児	548	87.4	74	11.8	5	0.8	627	100.0

・牛乳を毎日飲ませている割合を平成27年度と比較すると、1歳6か月児は75.0%→84.4%に増加、3歳児は87.9%→87.4%に減少

⑧朝食に野菜を摂取状況

	摂取あり		摂取なし		未記入		合計	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
1歳児	210	58.3	141	39.2	9	2.5	360	100.0
1.6歳児	304	55.8	189	34.7	52	9.5	545	100.0
3歳児	321	51.2	248	39.6	58	9.3	627	100.0

・朝食の野菜摂取は1歳児63.8%→58.3%、1歳6か月児66.2%→55.8%、3歳児52.2%→51.2%と全年齢減少した。

1)「子育て」についてお聞きします

【令和2年5月～令和3年8月分】

216件

①お母さんの体や心の健康状態は良いですか

はい	201	93.1%
いいえ	8	3.7%
未回答	7	3.2%

②この1か月間、気分が沈んだり、憂うつな気持ちになったりすることがよくありましたか

はい	30	13.9%
いいえ	181	83.8%
未回答	5	2.3%

③この1か月間、物事に対して興味がわかない、心から楽しめない感じがよくありましたか

はい	4	1.8%
いいえ	209	96.8%
未回答	3	1.4%

④上記の②または③のどちらかに「はい」と答えた方にうかがいます。
何か助けが必要だったり、助けてほしいと思ったりしますか

はい	11	35.5%
いいえ	20	64.5%

4. 3歳児健診視力検査に関する資料

(1)3歳児健診での視力検査結果について

対象: 令和2年度 3歳児健診受診者633人

1)3歳児健診視力検査結果

	実人数(人)	割合(%)
異常なし	569	89.9
要観察	15	2.4
要精密	26	4.1
医療管理中	7	1.1
不明	16	2.5

2)要精密検査結果

要精密検査受診率80.8%

	実人数(人)	割合(%)
異常なし	4	15.4
要観察	12	46.2
要医療	5	19.2
未受診・経過不明	5	19.2

5. 妊婦に関連する資料

(1) 妊婦の体格と妊娠中の体重管理について

対象: 令和2年度 3か月児健診受診者の母親 (有効回答385人)

1) 妊婦の非妊娠時体格別割合

体格指数	年度	平成27年		令和2年	
		人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
低体重 (18.5未満)		111	21.4	63	16.4
標準 (18.5以上25.0未満)		371	71.5	282	73.2
肥満 (25.0以上)		37	7.1	40	10.4

2) 令和2年妊婦の非妊娠時体格・妊娠中の体重増加と低出生体重児出生の関係

非妊娠時の体格別体重増加の状況				低出生体重児の出産状況									
				妊娠中の体重増加別 低体重児の割合				低出生体重児の 割合		早産	正期産		
非妊娠時の 体格	妊娠中の 体重増加	平成27年		令和2年		平成27年		令和2年		人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	人数 (人)
		人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)					
低体重	適正以下	23	20.7	22	34.9	5	21.7	2	9.1	5	7.9	0	2
	適正	52	46.9	27	42.9	5	9.6	2	7.4			0	2
	適正以上	36	32.4	14	22.2	1	2.8	1	7.1			0	1
標準	適正以下	45	12.1	51	18.1	6	13.3	11	21.6	26	9.2	7	4
	適正	216	58.2	165	58.5	16	7.4	13	7.9			3	10
	適正以上	110	29.7	66	23.4	5	4.5	2	3			1	1
肥満		37	-	40	-	4	10.8	1	2.5	1	2.5	0	1
合計		519	-	385	-	42	8.1	32	8.3			11	21

※適正体重とは、妊娠全期間を通した体重増加の目安。BMI(体格指数)が18.5未満(低体重)は9~12kg、18.5以上25.0未満(標準)は7~12kg、25.0以上(肥満)はおおよそ5kgとするが個別に対応

※双子は除く

(2) 妊娠期の高血圧・尿蛋白・妊娠糖尿病と産後の管理

対象: 平成27年度・令和2年度に実施した3か月児健診受診者の母親。平成27年度592人、令和2年度461人
赤ちゃん訪問にて妊婦健診結果を母子健康手帳から把握

1) 高血圧該当者

母の血圧140/90以上の者は平成27年度10人(1.6%)、令和2年度44人(9.5%)であった
高血圧の産後の管理状況

	平成27年		令和2年	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
産後改善が確認できた	7	70.0	41	93.2
内科治療継続	2	20.0	3	6.8
経過が不明	0	0.0	0	0.0
血圧測定や受診が できている	1	10.0	0	0.0

2) 尿蛋白の異常者

尿蛋白+以上の者は平成27年度3人(0.5%)、令和2年度10人(2.1%)であった
尿蛋白+以上の産後の管理状況

	平成27年		令和2年	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
産後改善が確認できた	1	33.3	1	10.0
受診ができている	0	0	3	30.0
経過が不明	2	66.6	6	60.0

3) 糖尿病の妊婦と産後の管理状況

妊娠糖尿病の妊婦は平成27年度1人(0.2%)、令和2年度24人(5.2%)であった。

	平成27年		令和2年	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
産後改善が確認できた	0	0	18	75.0
受診ができている	1	100	5	20.8
経過が不明	0	0	1	4.2

(3) 妊娠経過中の貧血状況について

妊娠経過中の貧血の有無について

対象: 令和2年度3か月児健診受診者466人の母親461人(双子5組あり)の妊娠期間中Hb10.9g/dl 以下 該当者を抽出

・妊娠期間中にHb10.9g/dl以下となる妊婦は239人(妊婦 461人中 51.8%)であった

(4) 令和2年度妊婦の喫煙状況

対象者: 妊娠届出者のうち、喫煙に関する回答を得られた422人

1) 妊婦の喫煙

	喫煙あり		喫煙なし	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
初産婦	1	0.6	162	99.4
経産婦	5	1.9	254	98.1
合計	6	1.4	416	98.6

・喫煙なしの妊婦のうち、過去に吸っていたがやめた者は52人(12.5%)であった

2) 妊婦の同居家族の喫煙状況

	妊婦喫煙あり		妊婦喫煙なし		合計	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
同居家族の喫煙あり	3	50.0	148	35.6	151	35.8
夫の喫煙あり	1	10	128	30.8	129	30.6

・平成30年全国たばこ喫煙者率調査では成人男性の喫煙率は27.8%であった

・国のベースラインでは育児期間中の父親の喫煙率は37.7%であった

3) 妊婦の喫煙開始年齢

	妊娠届出時喫煙あり		吸っていたがやめた	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
～14歳	1	16.7	0	0.0
15～19歳	2	33.3	7	13.5
20～24歳	1	16.7	29	55.8
25歳～	0	0.0	0	0.0
不明	2	33.3	16	30.8
合計	6	100.0	52	100.0

・吸っていたがやめた妊婦52人のうち、28人(53.8%)が今回の妊娠を機にやめている

・3か月児健診のおたずねでたばこを吸っていると回答した母親は12人(2.6%)であった。

(5) 岐阜県 母と子の健康サポート事業利用者状況

対象者	令和2年度		令和元年度		平成30年度	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
児	25	59.5%	28	58.3%	14	37.8%
妊婦	3	7.1%	0	0.0%	0	0.0%
産婦	14	33.3%	20	41.7%	23	62.2%
計	42	100.0%	48	100.0%	37	100.0%

令和2年度養育者の内訳:
育児不安7件、精神疾患5件、
若年2件、未婚3件、その他13
件(家族のサポート不足、不眠、
外国籍等)

参 考 资 料

健やか親子21指標及び目標(抜粋)

* 中津川市実施 健やか親子21アンケート

* 恵那の公衆衛生、母子保健事業実施状況調査、岐阜県衛生年報、中津川市学校保健、中津川市の保健より把握

課題名	指標名	中津川市	国		
			ベースライン	最終評価 (10年後) 目標	ベースライン調査
切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策	妊産婦死亡率	0.0%(出産10万対) (令和元年)	4.0%(出産10万対) (平成24年)	2.8%	○人口動態統計
	全出生数中の低出生体重児の割合	低出生体重児 9.6% 極低出生体重児 0.6% (令和元年)	低出生体重児 9.6% 極低出生体重児 0.8% (平成24年)	減少	○人口動態統計
	妊娠・出産について満足している者の割合	91.6%	63.7% (平成25年度)	85.0%	○平成25年度厚生労働科学研究 (山縣班)
	むし歯のない3歳児の割合	94.8%	81% (平成24年度)	90.0%	○母子保健課調査
	妊娠中の妊婦の喫煙率	2.2%	3.8% (平成25年度)	0%	○平成25年度厚生労働科学研究 (山縣班)
	育児期間中の両親の喫煙率	父親 36.5%	父親 41.5% (平成25年度)	20.0%	○平成25年度厚生労働科学研究 (山縣班)
		母親 4.3%	母親 8.1% (平成25年度)	4.0%	
	妊娠中の妊婦の飲酒率	1.1%	4.3% (平成25年度)	0%	○平成25年度厚生労働科学研究 (山縣班)
	乳幼児健康診査の未受診率 (重点課題②再掲)	3～5か月児:0.4%	3～5か月児:4.6%	3～5か月児:2.0%	○地域保健・健康増進 事業報告
		1歳6か月児:0.3%	1歳6か月児:5.6%	1歳6か月児:3.0%	
		3歳児:0.9%	3歳児:8.1% (平成23年度)	3歳児:5.0%	
	小児救急電話相談(＃8000)を知っている親の割合	76.9%	61.2% (平成26年度)	90.0%	○平成26年度厚生労働科学研究 (山縣班)
	子どものかかりつけ医(医師・歯科医師 など)を持つ親の割合	<医師> 3・4か月児 79.2% 3歳児 87.4%	<医師> 3・4か月児 71.8% 3歳児 85.6% (平成26年度)	3・4か月児 85.0% 3歳児 95.0%	○平成26年度厚生労働科学研究 (山縣班)
		<歯科医師> 3歳児 42.0%	<歯科医師> 3歳児 40.9% (平成26年度)	3歳児50.0%	
	仕上げ磨きをする親の割合	98.3%	69.60% (平成26年度)	80.0%	○平成26年度厚生労働科学研究 (山縣班)
	周産期死亡率	出産千対 2.0% (令和元年)	出産千対 4.0% 出生千対 2.7% (平成24年)	—	○人口動態統計
	新生児死亡率、乳児(1歳未満)死亡率 (出生千対)	新生児死亡率 2.0%	新生児死亡率 1.0%	—	○人口動態統計
		乳児(1歳未満)死亡率 (令和元年)	乳児(1歳未満)死亡率 (平成24年)		
	幼児(1～4歳)死亡率(人口10万対)	0.0% (令和元年)	20.90% (平成24年)	—	○人口動態統計
	乳児のSIDS死亡率(出生10万対)	0.0% (令和元年)	13.90% (平成24年)	—	○人口動態統計
妊娠11週以下での妊娠の届出率	93.2% (令和元年度)	90.8% (平成24年度)	—	○地域保健・健康増進 事業報告	
出産後1か月時の母乳育児の割合	34.0%	47.5% (平成25年度)	—	○平成25年度厚生労働科学研究 (山縣班)	
1歳6か月までに四種混合(第1期初回3 回目)、麻しん・風しんの予防接種を終 了している者の割合	四種混合 96.2% 麻しん・風しん 91.7%	三種混合 94.7% 麻しん 87.1% (平成25年度)	—	○平成25年度厚生労働科学研究 (山縣班)	

課題名	指標名	中津川市	国		
			ベースライン	最終評価 (10年後) 目標	ベースライン調査
学童期・思春期から成人期に向けた保健対策	歯肉に炎症がある十代の割合	30.7% (令和2年度中学生)	25.7% (平成23年)	20.0%	○歯科疾患実態調査
子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり	この地域で子育てをしたいと思う親の割合	94.7%	91.1% (平成26年度)	95.0%	○平成26年度厚生労働科学研究(山縣班)
	妊娠中、仕事を続けることに対して職場から配慮をされたと思う就労妊婦の割合	94.0%	91.0% (平成26年度)	95.0%	○平成26年度厚生労働科学研究(山縣班)
	マタニティマークを妊娠中に使用したことのある母親の割合	65.0%	52.3% (平成25年度)	70.0%	○平成25年度厚生労働科学研究(山縣班)
	積極的に育児をしている父親の割合	67.3%	47.2% (平成25年度)	55.0%	○平成25年度厚生労働科学研究(山縣班)
	乳幼児がいる家庭で、風呂場のドアを乳幼児が自分で開けることができないよう工夫した家庭の割合	46.7%	38.2% (平成25年度)	—	○平成25年度厚生労働科学研究(山縣班)
育てにくさを感じる親に寄り添う支援	育てにくさを感じたときに対処できる親の割合	3・4か月児 86.4% 1歳6か月児 80.0% 3歳児 68.3%	3・4か月児 79.7% 1歳6か月児 68.5% 3歳児 60.3% (平成25年度)	3・4か月児 83.0% 1歳6か月児 71.5% 3歳児 64.0%	○平成25年度厚生労働科学研究(山縣班)
	育てにくさを感じたときに対処できる親の割合	83.4%	83.4% (平成26年度)	95.0%	○平成26年度厚生労働科学研究(山縣班)
	子どもの社会性の発達過程を知っている親の割合	89.3%	83.3% (平成26年度)	95.0%	○平成26年度厚生労働科学研究(山縣班)
妊娠期待からの児童虐待防止対策	乳幼児健康診査の未受診率(基盤課題A再掲)	3～5か月児 0.4% 1歳6か月児 0.3% 3歳児 0.9%	3～5か月児 4.6% 1歳6か月児 5.6% 3歳児 8.1% (平成23年度)	3～5か月児:2.0% 1歳6か月児:3.0% 3歳児:5.0%	○地域保健・健康増進事業報告
	乳幼児揺さぶられ症候群(SBS)を知っている親の割合	95.0%	94.3% (平成26年度)	—	○平成26年度厚生労働科学研究(山縣班)

※ 健やか親子21(第2次)

平成13年から開始された、母子の健康水準向上のための国が策定した国民運動計画。平成27年度(～令和6年度)から、健やか親子(第2次)が開始。安心して子どもを産み、健やかに育てることの基礎となる少子化対策としての意義に加え、少子化社会において、国民が健康で明るく元気に生活できる社会の実現を図るための国民の健康づくり運動(健康日本21)の一翼を担うもの。

すべての子どもが健やかに育つ社会に向かって、3つの基盤課題の設定と2つの重点課題あり。

- 基盤課題A : 切れ目のない妊産婦・乳幼児への保健対策
- 基盤課題B : 学童・思春期から成人期に向けた保健対策
- 基盤課題C : 子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり
- 重点課題① : 育てにくさを感じる親に寄り添う支援
- 重点課題② : 妊娠期待からの児童虐待防止対策

中津川市母子保健連絡協議会委員名簿

区 分	氏 名	団体等の名称	役 職
医療・保健団体の代表	◎中川 俊郎	一般社団法人 恵那医師会中津川医会	小児科医代表
	林 弥生	一般社団法人 恵那医師会中津川医会	産婦人科医代表
	三尾 真人	一般社団法人 中津川歯科医師会	理 事
育児に関係する市民 組織の代表	○安藤 広子	育児支援グループ (中津地区)	すくすくわくわくま あるいこころ 事務局長
	林 愛子	育児支援グループ (蛭川地区)	ひるかわっこ代表
	安藤 圭子	中津川市健康推進委員会	理 事
教育、福祉団体の代表	糸魚川 正道	社会福祉法人 中津川市社会福祉協議会	事務局長
	河合 裕	中津川市教育委員会	幼児教育課長
	大橋 正哉	子育て世代包括支援 センター	子育て世代包括支 援センター所長
識見を有する者	坪井 久宣	岐阜県恵那保健所	健康増進課長

◎会長 ○副会長

(順不同・敬称略)